

殺線虫剤

〔DCIP粒剤〕

ネマモール粒剤30

有効成分：ジクロロジイソプロピルエーテル…… 30.0%

性 状：黄色細粒
 毒 性：劇物
 危 険 物：—
 有効年限：3年
 包 装：15kg缶
 5kg×4缶

ネマモールは株式会社エス・ディー・エス バイオテックの登録商標です。

〔特長〕

- 施肥、畦たて時に同時施用ができ、ガスぬきの必要がないので省力的である。
- センチュウ密度が低い時期の処理はより効果的である。
- 茶、みかん、桑など永年作物には、生育中処理ができる。
- 本剤の成分は土中で徐々に拡散し、残効性が1～2ヶ月あるので、モグラ、野そに対する忌避効果が持続する。
- ほうれんそうのコナダニ類に対し、は種前全面土壌混和処理で有効である。

〔適用害虫と使用方法〕

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	DCIPを農薬の総使用回数	
セルリー すいか カーネーション	ネコブセンチュウ ネグサレセンチュウ	30kg ／10a	定植前 まで	1回	全面土壌混和 植溝土壌混和 植穴土壌混和	1回	
	きゅうり				ネコブセンチュウ		定植前全面土壌混和 耕起整地後30cm間隔に深さ 10～15cmの溝を掘り1m当り 本剤9gを施し直ちに覆土する。
					ネコブセンチュウ		定植前植溝土壌混和 植付位置に深さ10～15cm の溝を掘り全面土壌混和と 同要領で行う。
ほうれんそう	コナダニ類	30g/m ²	は種前 まで		定植前植穴土壌混和 植付位置に植穴中心に深さ 10～15cm 径30cm 位の穴を 掘り本剤15gを施し直ちに覆 土する。		
					育苗床モミガラ処理		
茶	ネグサレセンチュウ	30kg ／10a	摘採 14日前 まで	2回以内 (秋期は 1回以内、 春期は 1回以内)	裾下にそって深さ10～15cmの 溝を掘り散粒して覆土する。 又は畦間に全面散布して耕起 する。	2回以内 (秋期は 1回以内、 春期は 1回以内)	

作物名	適有害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	D C I P を 含 む 農 薬 の 総使用回数	
みかん	ミカンネコナ カイガラムシ	30kg ／10a	収穫150日 前まで	1回	樹冠下に散布	1回	
はくさい	ネコブセンチュウ		定植前 まで		定植前 まで		定植前全面土壌混和 耕起整地後30cm間隔に深さ 10～15cmの溝を掘り1m当り 本剤9gを施し直ちに覆土する。
							定植前植溝土壌混和 植付位置に深さ10～15cmの 溝を掘り全面土壌混和と同要 領で行う。
							定植前植穴土壌混和 植付位置に植穴中心に深さ10 ～15cm径30cm位の穴を掘り本 剤15gを施し直ちに覆土する。
桑			生育中				株際から30cm離し株間に深さ 10～15cmの溝を30cm間隔に 掘り本剤所定量を施し直ちに 覆土する。
かんしょ		植付前 まで		全面土壌混和 植溝土壌混和 植穴土壌混和			



忌避剤として

作物名	適用場所	使用目的	適有害獣名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	D C I P を 含 む 農 薬 の 総使用回数
らっかせい	圃場 野積箇所	食 害 忌 避	野ソ	1㎡当り 30g	野積当日	1回	整地後、圃場の野積予定箇所 及びその周囲約50cm幅の 範囲に本剤を均一に散布し、 表土15cmと混和する。	1回
チューリップ	畑地 (根雪地帯)			処理溝 1㎡当り 50g	根雪前	—	畑の外周に深さ10cm程度の 溝を掘り、本剤を散布後 覆土・鎮圧する。	—
りんご	—			100g ／樹		1回	樹幹下半径約50cmの範囲に 均一に散粒し、レーキ等で 表土と混和した後、鎮圧する。	1回
野ソ あるいは モグラが 加害する 農作物等	ビニール ハウス			処理溝 1㎡当り 50g	ビニール 被覆前後	—	—	ビニールハウスの外周に深さ10 cm程度の溝を掘り、本剤を散布 後覆土・鎮圧する。
	畑地 (根雪地帯)	処理溝 1㎡当り 100g	根雪前	畑の外周に深さ10cm程度の溝 を掘り、本剤を散布後 覆土・鎮圧する。				
	畑地	忌避	モグラ	処理溝 1㎡当り 100g	作物栽培 期間			

効果・薬害等の注意

- 使用量に合わせ秤量し、使いきる。
- まめ科作物には使用しない。
- 缶をあけたらなるべく早く使用する。
- 使用時期は地温10℃以上のときに行ない、乾燥し過ぎ、又は湿り過ぎのときは施用をさける。
- 本剤を、野ソ及びモグラの忌避剤として使用する場合には、次の注意を守る。
 - 本剤を野ソ防除に使用する場合、落花生に対しては野積当日に、りんご・畑地野菜・チューリップに対しては根雪前に、ビニールハウスに使用する場合にはビニール被覆前後に、モグラ防除に畑地に使用する場合には作物の栽培期間中に処理する。
 - 本剤の忌避作用は、日時の経過によって次第に失われるので、野積作物は圃場に長く放置しない。また、ビニールハウスや畑地に使用する場合には、薬臭が感じられなくなったら再度処理する。
 - りんごに使用する場合には、樹幹下半径約50cmの範囲の落葉、雑草等をあらかじめ取り除いてから処理する。
 - 直接野積の作物や栽培期間中の作物にかからないように注意する。
 - 野積に当たっては、下にむしろ、麻袋等を敷いて直接作物が処理土壤にふれないようにする。
 - 本剤は忌避剤なので、ビニールハウスや畑地内に野ソ及びモグラが侵入した場合は物理的防除法など他の防除法と併用して使用することが望ましい。
 - チューリップ、カーネーション以外の花卉類の近辺では使用しない。
- きゅうりのコナダニ類に使用する場合には、育苗床の床下に入れたモミガラの上に本剤の所定量を散布する。
- ほうれんそうのコナダニ類に使用する場合には、ネーキッド種子、催芽処理した種子等薬剤感受性の高い種子は、薬剤処理後3日おいてからは種する。
- ビニールハウスの野ソ及び畑地（根雪地帯）の野ソに対する食害忌避、又は畑地のモグラに対する忌避を使用目的として使用する場合には、使用者の責任において事前に栽培作物への薬害の有無を十分確認してから使用する。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

安全使用上の注意

- 医薬用外劇物。取扱いには十分注意する。
 - 誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせる。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受ける。
-  本剤の処理の際は吸収缶付き（活性炭入り）防護マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用する。
 - また薬剤が皮膚に付着したり揮散したガスを吸い込んだりしないよう注意し、作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをする。
- 作業中の圃場へ小児等作業に関係のないものや家畜、家禽が立ち入らないよう十分に注意する。
 -  【保管】：直射日光をさけ、食品と区別して、鍵のかかるなるべく低温で乾燥した場所に密封して保管する。盗難・紛失の際は、警察に届け出る。

農薬登録（登録番号）：エス・ディー・エス バイオテック（8079）

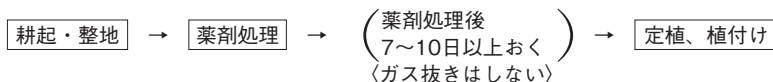
販売：住友化学、丸善薬品産業

[上手な使い方]

A. 野菜類に対する使い方 (殺センチュウ剤として)

作付前 (定植、植付前) 処理の場合

1) 作業手順



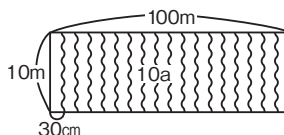
かたまり等があるとガスの拡散がうまくいかない場合があります、効果にムラが出ることもある。

2) 薬剤処理

① 全面土壌混和处理

畑全面あるいは植付予定地 (平うねなど) に散粒し直ちにロータリーで15cmの深さにスキ込みをする。

薬量 : 1㎡当り30g (10a当り30kg)



② 定植前全面土壌混和处理

畑全面あるいは植付予定地 (平うねなど) に30cm間隔に深さ15cmの溝を切り、その溝に1㎡当り9g均一に散粒し、直ちに覆土する。



薬量 : 1㎡当り9g (10a当り30kg)

☆マルチングする場合

ネマモールを処理した後早めにマルチングをし、7~10日以上おいてから定植する。

B. 茶に対する使い方

1) 薬剤処理方法

作物	10アール当り薬量	使用方法	
茶	30kg	畦間全面処理 畦間に散粒後直ちに ロータリースキ込み 	溝処理 裾下にそって深さ10~15cmの 溝に散粒後直ちに覆土 

☆生育中処理の注意事項

- 散粒後に適度な降雨があれば、なお効果的である。
- 3~8月の摘採期間中の断根 (根掘り) は生葉減収の原因にもなるので注意する。

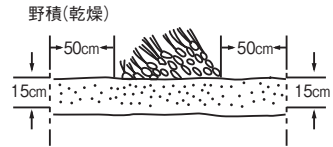
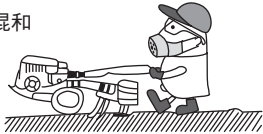
C. 「野ソ」食害忌避剤としての使い方 「野ソ」に対する有効期間は2ヶ月程度である。

イ 落花生での使い方

野積する当日、土壌混和する。

薬量 : 1㎡当り30g

混和



ネマモール粒剤1㎡当り30g散粒後すぐ深さ15cm位にロータリーなどですき込みをする。

野積に当たっては、下にむしろ、麻袋等を敷いて直接作物が処理土壤にふれないようにする

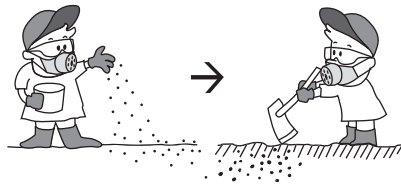
ロ りんご樹での使い方

薬量 : 1樹当り100g

樹幹下半径約50cmの範囲に均一に散粒し、表土と混和した後、鎮圧する。



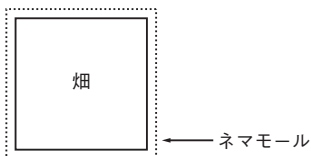
ネマモール散粒範囲



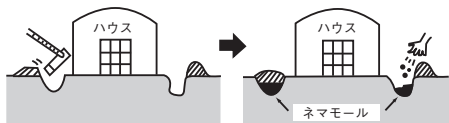
ハ 畑・ハウスでの使い方

薬量 : 1㎡当り50g

畑・ハウスの周囲に深さ10cm位の溝を掘り、ネマモール粒剤を1㎡当り50gを散粒し、直ちに覆土・鎮圧する。



ネマモール



D. **モグラ忌避剤としての使い方**

薬量 : 1m当たり100g

畑の周囲に深さ10cm位の溝を掘り、ネマモール粒剤を1m当たり100g散粒し、直ちに覆土・鎮圧する。

E. **コナダニ類に対する使い方**

イ ほうれんそう (全面土壌混和)

① 土を良く耕起、
整地する



かたまり等があるとガスの拡散がうまくいかない場合があり、効果にムラが出る可能性がある。

② 散粒



ムラなく散粒し、すぐにロータリーで15cmの深さに入るようにスキ込む。

スキ込み



③ 日数

**当日播種が
可能です。**

ネーキッド種子および催芽処理した種子の場合は、ネマモール処理後、3日あけて播種する。

ロ きゅうり (育苗床モミガラ処理)



育苗床のモミガラにネマモール粒剤30g/m²を散布する。